長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2021年第3週　　2021年1月18日（月）～2021年1月24日（日）　2021年1月28日作成

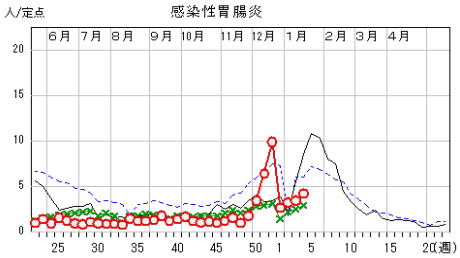
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位３疾患）の発生状況

（１） 感染性胃腸炎

第3週の報告数は182人で、前週より35人多く、 定点当たりの報告数は4.23であった。

年齢別では、１歳（44人）、10～14歳（21人）、４歳（17人）の順に多かった。

定点あたり報告数の多い保健所は、県北保健所（11.67）、県央保健所（7.50）、県南保健所（5.50）であった。

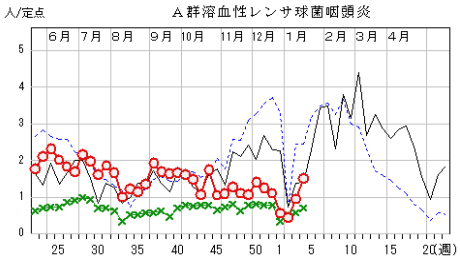


（２） A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第3週の報告数は65人で、前週より24人多く、 定点当たりの報告数は1.51であった。

年齢別では、２歳（10人）、４歳（8人）、５歳及び10～14歳（7人）の順に多かった。

定点あたり報告数の多い保健所は、県央保健所（6.00）、県南保健所（2.25）であった。

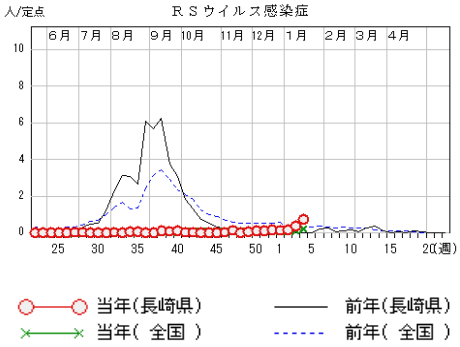


（３） RSウイルス感染症

第3週の報告数は32人で、前週より16人多く、 定点当たりの報告数は0.74であった。

年齢別では、１歳（11人）、２歳（7人）、1歳未満（5人）の順に多かった。

定点あたり報告数の多い保健所は、県央保健所（3.50）、佐世保市保健所（1.17）であった。



☆上位３疾患の概要

【感染性胃腸炎】
第3週の報告数は182人で、前週より35人多く、 定点当たりの報告数は4.23でした。地区別にみると県北地区（11.67）、県央地区（7.50）、県南地区（5.50）は他の地区より多くなっていますので、今後の動向に注意しましょう。
本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】
第3週の報告数は65人で、前週より24人多く、 定点当たりの報告数は1.51でした。地区別にみると県央地区（6.00）、県南地区（2.25）は他の地区より多くなっていますので、今後の動向に注意しましょう。
本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

【RSウイルス感染症】
第3週の報告数は32人で、前週より16人多く、 定点当たりの報告数は0.74でした。地区別にみると、県央地区（3.50）、佐世保地区（1.17）は、他の地区より多くなっていますので、今後の動向に注意が必要です。
RSウイルス感染症は、発熱や鼻水が主な症状の呼吸器感染症で、通常は軽症で済みますが、一部は重い咳が出て呼吸困難や肺炎になることもあります。ワクチンはなく、接触感染や飛沫感染で一度かかっても再感染し、大人も感染することがあります。乳幼児、特に6ヶ月未満の乳幼児が本ウイルスに罹患すると、呼吸困難を伴う重篤な細気管支炎や肺炎、脳症を発症することがありますので、心臓などに基礎疾患のある小児では特に注意が必要です。小さいお子さんがいらっしゃるご家庭では、保護者の方が手洗いの励行、体調管理や体調の変化に心掛けてあげるなどして感染防止に努め、早目に医療機関を受診させてあげるよう心がけましょう。

☆トピックス：インフルエンザを予防しましょう！

インフルエンザの全国的な流行は、例年11月下旬から12月上旬頃に始まり、年が明けて1月から3月頃にピークを迎えます。本県では、1月から本格的な流行が始まり、以後患者数が急増して2月初旬から中旬にかけてピークに達する傾向にあります。
今シーズンの患者数の増加はまだ認められていませんが、早めの対策が必要です。予防には、ワクチン接種と「咳エチケット」の徹底などの積極的な感染予防策が有効です。ワクチンは接種すればインフルエンザに絶対にかからないというものではありませんが、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。ワクチンの予防効果が期待できるのは、接種した（13歳未満の場合は2回接種した）2週後から5か月程度までと考えられています。10月から接種可能となっていますので、流行に備えてワクチンを接種しておくことが望ましいです。
今後の動向に注意しながら、ワクチンの接種や外出後の手洗いの励行、「咳エチケット」の徹底など感染予防を心がけましょう。

～　咳エチケット　～
・マスクを着用する（咳をしている人には着用を促す）
・マスクを持っていない場合は、ティッシュや上着の内側などで口や鼻を押さえる
・使用したティッシュは、すぐにゴミ箱へ捨てる
・咳やくしゃみを受け止めた手は、すぐに洗う

（参考）厚生労働省　インフルエンザ総合ページ（外部のページに移動します。）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html

◆全数届出の感染症

1類感染症： 報告なし

2類感染症： 結核　患者　男性　(40歳代・1名)

3類感染症： 報告なし

4類感染症： 報告なし

5類感染症(全数把握対象)： 報告なし

※新型コロナウイルス感染症の発生件数については、長崎県ホームページに掲載しています。

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1)　疾病別・週別発生状況　　(第51～3週、12/14～1/24)

疾　患　名	定点当たり患者数					
	51週	52週	53週	1週	2週	3週
	12/14～	12/21～	12/28～	1/4～	1/11～	1/18～
インフルエンザ	0.06	0.01	0.04	0.04		
ＲＳウイルス感染症	0.09	0.16	0.12	0.16	0.37	0.74
咽頭結膜熱	0.57	0.25	0.09	0.40	0.28	0.30
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1.25	1.11	0.56	0.44	0.95	1.51
感染性胃腸炎	6.41	9.91	2.65	3.21	3.42	4.23
水痘	0.27	0.25	0.21	0.16	0.19	0.26
手足口病	0.05	0.05	0.07	0.02	0.02	0.02
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.02	0.02				0.02
突発性発しん	0.39	0.43	0.14	0.51	0.42	0.30
ヘルパンギーナ	0.02					
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.09			0.05		0.12
急性出血性結膜炎						
流行性角結膜炎	0.38	0.25	0.13		0.25	
細菌性髄膜炎						0.08
無菌性髄膜炎				0.17		
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.08	0.08			
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.08			0.08		

(2)　疾病別・保健所管内別発生状況　　(第3週、1/18～1/24)　　※赤字:警報レベル、青字:注意報レベル

疾　患　名	定点当たり患者数(県・保健所管轄別)										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ											
ＲＳウイルス感染症	0.74	1.17	0.20			3.50		0.67			
咽頭結膜熱	0.30		0.50		0.25	0.83	0.50				
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1.51	1.17	0.90			6.00	2.25	1.00	0.25		
感染性胃腸炎	4.23	4.00	3.10	2.00	3.50	7.50	5.50	11.67	1.00		1.50
水痘	0.26	0.17			0.25	0.83	0.50	0.33		0.50	
手足口病	0.02	0.17									
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.02							0.33			
突発性発しん	0.30	0.17	0.60		0.25	0.33	0.25	0.67			
ヘルパンギーナ											
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.12	0.17	0.20			0.17		0.33			
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎											
細菌性髄膜炎	0.08	1.00									
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎											
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											